

1. 現職教育計画方針

石川県教育委員会及び教員総合研修センター、郡市教育課程研究会、公開研究会、校内研究会・研究会など研修の機会を積極的に活用し、自己の研鑽に努める。

2. 学校研究

(1) 研究主題・副主題

自ら考え、伝え合う子の育成
～主体的・協働的に学び合う授業を通して～

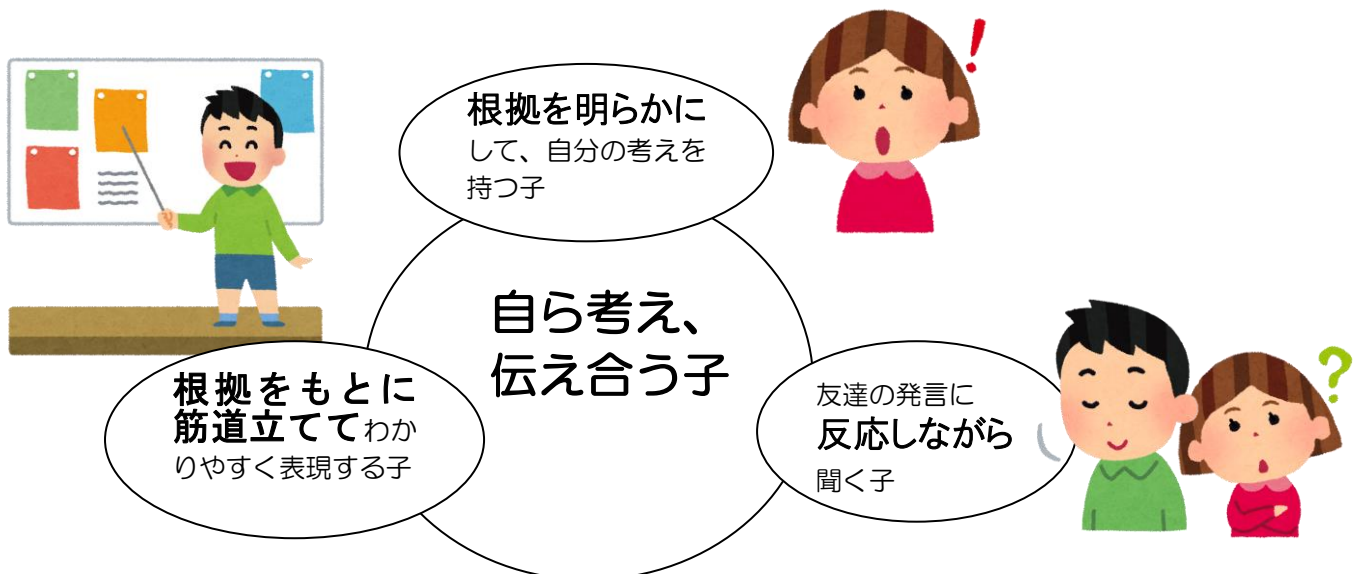
(2) 設定の理由

本校では、これまで、自分の考えを互いに伝え合いながら高め合う子の育成をめざして研究に取り組んできた。児童一人一人が自分の考えをもち、友だちと考えを深め合うことで、新たな考えや価値に気づき、自分の考えを再構築することができるであろうと考えた。

昨年度は、算数科を通して学校研究を進めてきた。取組の成果として、「既習事項やキーワードを黒板に提示したり、学習履歴の掲示をしたりすることで、児童がいつでも視覚的にふり返ることができ、考えをもつ手立てとなった」「目的を明確にしたペア・グループ活動を取り入れることで、児童全員が考えを表出することができたり、考えを広めたり、深めたりすることができた」などがあった。そこで、今年度は、これまでの研究をさらに深め、成果を他の教科にも広げたいと考え、国語科を中心に研究に取り組む。

今年度も、研究主題と副主題は継続し、研究主題「自ら考え、伝え合う子の育成」、副主題「主体的・協働的に学び合う授業づくりを通して」とする。また、昨年度に引き続き、研究の重点を①「自分の考えをもてるような手立ての工夫」②協働的な学びの場面においては、「学びを深め合うための交流の場の工夫」とする。まず、自分の考えをもつ場や手立てを工夫し、一人一人が自分の考えを確実にもてるような授業づくりをする。次に、自分の考えを伝え深めるための話し合いができるよう、目的に応じた交流の仕方や学習形態を工夫することを追究していく。児童が主体的に問題解決に取り組み、対話を通して一人一人の思考が高まり、「わかる・できる」経験を実感すると共に、深い学びとなる授業づくりを目指していきたい。

(3) めざす児童の姿



(4) 研究の重点

表現活動を通して考えを深めるための指導の工夫

大根布授業スタイル「①つかむ」「②考える」「③深める」「④まとめる」の中の②と③について重点的に取り組む。

重点1 自分の考えをもつ（考える）

◆考えをもてるような手立ての工夫

☆焦点化

- ・ねらいの明確化
- ・成果物や学習計画などの単元のゴールや単元全体の見通し

☆スモールステップ化

- ・ワークシート ノート

☆視覚化

- ・構造化された板書
- ・ネームプレート
- ・既習揭示
- ・学習計画の揭示

☆身体性の活用

- ・動作化

重点2 協働的に学び、深め合う（深める）

◆学びを深め合うための工夫

①相手に分かりやすく表現する工夫

- ・巻き込み発言（相手や場面を意識した話し合い）
- ・ステップアップ表の活用
- ・ノートやワークシートを活用した話し合い
- ・動作化

②全員を巻き込む問い返し〈深め発問〉

つなぐ

- ・〇〇さんは、どの言葉から考えたと思いますか？
- ・〇〇さんと根拠は同じだけど、わけが違う人いますか？
- ・どうして〇〇さん、そう思ったんですか？
- ・〇〇さん、どんなこと言いたいのか言える人いますか？

もどす

- ・今、何について考えたか、説明できる人？

比べて返す

- ・〇〇さんの意見と◇◇さんの意見、どこが違っていましたか？

確認する

- ・質問はありませんか？

ゆさぶる（違う角度から考えさせる）

- ・本当にそう言えるの？
- ・～の場合はどうですか？

③目的を明確にしたペア・グループ活動

【目的】・考えの糸口をもらう

- ・間違いを正す
- ・表現する場の保障
- ・発表の準備
- ・教え合う
- ・考えを深める
- ・よりよい伝え方を考える
- ・理解の確認





【ペア学習の場面の例】

- ・問題解決の見通しをもたせた後の場面
- ・自力解決や追究の後の場面
- ・一斉学習の中で、全体に問題意識をもたせるような発言がなされた後の場面
- ・学んだことを適用する問題に取り組みさせた後の場面

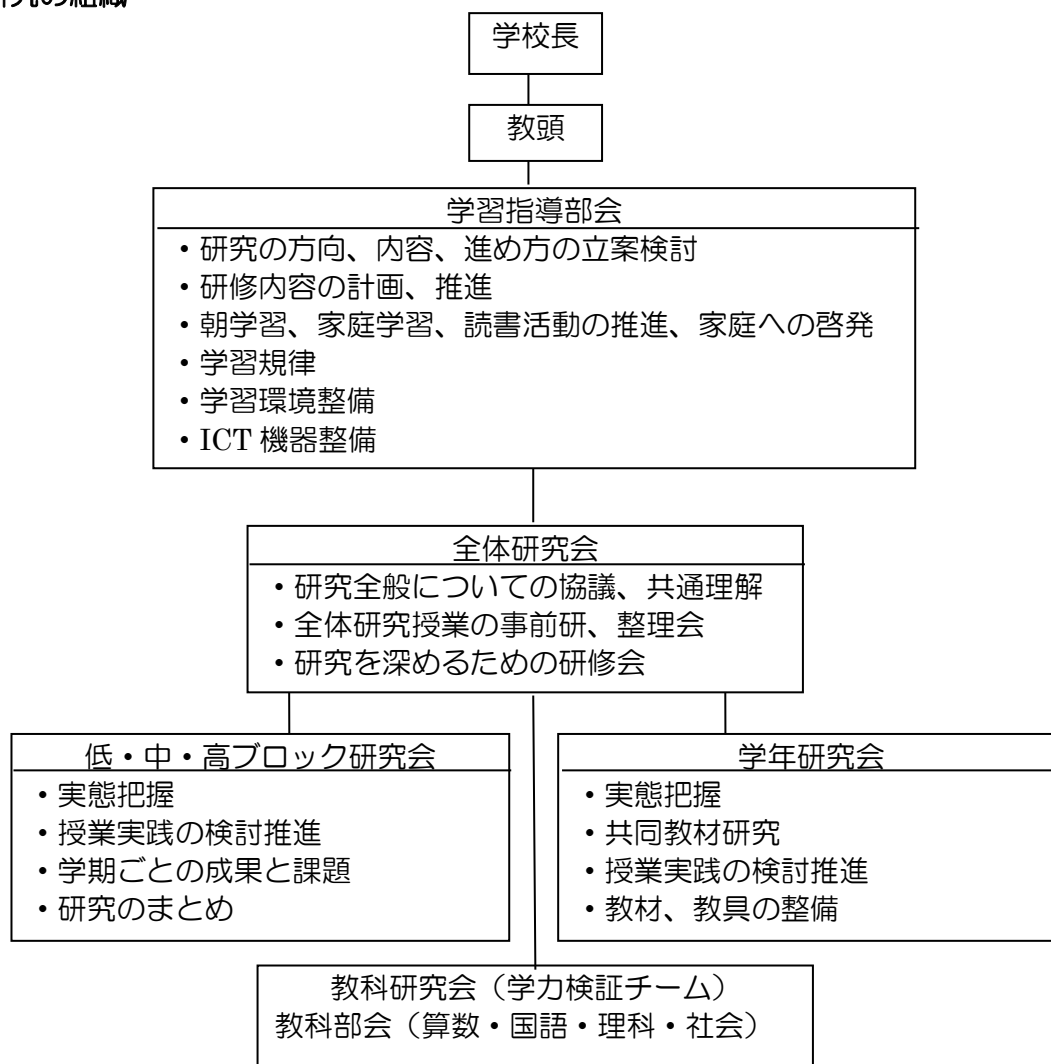
など

(5) 本校の児童につけたい力

低中高学年それぞれの発達段階に応じて、児童につけたい「話す力」「聞く力」「書く力」を明確にする。そして、それらの力を育成するため有効な手立てを考え、実践を積み重ねていく。

 「話す・聞く・書く」ステップアップ表 			
	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
	自分の考えを伝える 思い・考え 	理由をつけて考えを伝え合う 考え→理由 	根拠と理由を区別して伝え合う 結論 ← 理由 ↓ 根拠 →
話 す	○はいっ、…です。 ○はじめに 次に 最後に ○どうですか？ ○分かりましたか？	○… を見てください。 ○～ですね→「はい」 ○だから～です。 ○～です。わけは～	○…から ～とわかりますね。 ○もし…だとすると、 ～ですね。 ○つまり、～です。
聞 く	○同じです。 ほかにあります。 にています。 	○うなずきながら ○～とは、 どういうことですか。	○…さんの考えを まとめると、 ～ですね。 ○つまり、～ですね。
書 く	○助詞を正しく は に を へ ○順序立てて正しく はじめに 次に 最後に	○段落をつけて ○接続詞を使って しかし だから なぜなら それから そして でも	○これらのことから ○つまり 

(6) 研究の組織



(7) 研究の方法

- ① 各部会で研究の重点を具現化するための手立てを考え、実践の中で主題に迫る指導を追究していく。
- ② 研究授業を通して、検証を行う。
 - ・ 1人1回研究授業を行う。級外は、担当教科で行う。
 - ・ 年間3回の全体研究授業（低・中・高ブロック各1名）を設定し、共通理解を深めながら研究を進める。全体研以外をブロック研とする。
 - ・ 研究授業の事前研・授業整理会は各ブロックを中心に行う。所属するブロック以外の研究授業、整理会も積極的に参加し、感想を伝え合う。
 - ・ 全体研究会、ブロック研究会においては積極的に外部講師を招聘し研修を深める。
 - ・ 全体研究授業の事前研では、指導案検討、模擬授業を行い、全員で授業づくりを考える。児童の発言のつながり、資料提示、支援のタイミング、発問の妥当性、効果的な板書について協議検討する。
 - ・ 授業整理会では、研究主題、副主題にそった協議になるようにし、児童の変容をもとに授業改善に努める。
- ③ 相互に授業を参観し合い、授業力向上に努める。
- ④ 外部講師を招聘した研修会を行い、指導力向上を目指す。
- ⑤ 実践や取組の成果を以下の方法で検証し、よりよい実践に向けて改善を図る。
 - ・ 学力、学習状況調査

- ・児童アンケートによる意識調査
- ・めざす児童の姿と児童の実態の分析
- ・授業での発言や行動の観察
- ・児童のノート記述

(8) 研究主題に迫るための方策

授業力向上に向けた取組

①大根布授業スタイル

つかむ→考える（自己解決）→深める（考えの交流）→まとめるという4つの学習過程がある問題解決型学習に取り組む。タイムマネジメントを意識し、45分を見通した授業設計を考えることで授業の構造化を図る。

②授業研究の充実

(ア) 模擬授業

全体研究授業の事前研では、指導案検討に加えて、模擬授業を実施する。ねらいや児童の思考の流れに沿った学習課題の吟味、資料提示のタイミング、発問の妥当性、児童の考えの取り上げ方、効果的な板書などについて児童の反応を予想しながら問題点を協議する。

(イ) グループワーク授業整理会

付箋を活用し、可視化を図りながら、重点ごとに視点を明確にして成果と課題、改善策を協議する。

③授業改善に向けての取組

学期毎の授業改善自己目標シートを用い学期毎に目標を見直すとともに、週案上の1時間をマーカー授業として位置づけ自己評価し、研究の重点を意識しながら自己目標の検証を行う。

④相互授業参観

日常的な授業研究を進められるように、相互授業参観週間を設定する。全員参加の授業、理解定着、板書の工夫、児童に対する教師の働きかけ、他学年の学習内容や系統性などを知り、よりよい指導法を学ぶ機会とする。

⑤OJTの充実

学年会で教材研究の時間を確保するとともに、日常的に学年の教材研究を大切にしながら、教師の困り感を共有したり、すぐに授業で実践したりできるようにOJTの研修の機会を設ける。若手教職員の要望を反映した、授業力向上・学力向上のための内容などを計画的に実施する。

学習を支える基盤づくりの取組

①「ねぶっ子 授業の8つのお約束」をもとにした学習規律の徹底

学習の準備、姿勢、話し方、聞き方等、学習規律を8つの項目に焦点化した「授業の8つのお約束」をもとに指導を行う。この約束は短冊状で教室に掲示し、児童の状況を見ながら、重点的に取り組む短期目標を設定していく。学期ごとにふり返りを行い、おおむね達成できていると判断した項目には、短冊に花丸カードを貼っていく。

②言語力の育成 「話す・聞く・書くステップアップ表」

相手にわかりやすく、相手を説得できるように話すには、根拠を明確にする必要がある。「話す聞く書くステップ表」をいつでも意識できるように全教室に掲示し、友だちの意見につなげる話型や考え・根拠・理由の表現の仕方をわかりやすく示し、相手意識をもった話し合いができるようにする。また、ステップアップ表を児童が手元に持ち、自分がどこまでできるようになったかを確認できるようにする。

③ 基礎・基本の定着

(ア) 漢字検定

各学年で習う漢字の習得を、学校全体で徹底して行うために、ねぶっ子漢字検定に取り組む。校長が作成・採点・集計・表彰を行い、全学年共通で取り組む。また、「早寝・早起き・家庭学習」の取組とタイアップすることで、家庭と連携して行う。

(イ) 朝学習（読みチャレ）

朝学習は、基礎・基本の定着に繋がる大切な時間と捉え、15分間集中して学習することを徹底する。月曜日は読書、火・金曜日は漢字や計算に取り組み、水・木曜日は「長文に慣れること」、「時事的な問題に興味を持たせること」、「語彙力アップ」、「問いに正対する解答の仕方の定着」をねらい、読みチャレに取り組む。児童の読解力をつけるため、継続して取り組む。

(ウ) パワーアップ月間

11月と2月、3月をパワーアップ月間として、3・4・5年を中心に活用問題に取り組む時間を設定する。長文読解や弱点克服のため、いしかわ学力向上プログラムの「活用力をはかる評価問題」や各種学力調査の問題に取り組み、解答と解説を行う。

(エ) 家庭学習の習慣化

年度当初、家庭と児童向けに「家庭学習のてびき」を配布する。児童には家庭学習の取り組み方や内容の参考にさせ、保護者に対しては協力を依頼し、家庭での支援に活かしてもらおう。学年×10分の学習時間の定着を目指して、学習時間に見合うような課題を工夫していく。

④ 読書活動の推進

読書量を増やすために学年ごとに冊数目標を設定したり、読書の幅を広げるために読んでほしい本を必読書として選定したりする。さらに、週1回の朝読書、図書ボランティアや教師、英語指導員による読み聞かせ、お話会なども行い、読書に関する関心を喚起する。

読んだ本の履歴がわかる「読書カード」も活用しながら、読書の質を高めていく。また、4月23日のいしかわ学校読書の日に合わせて、毎月23日に読書を家庭学習の課題にして家庭読書も推進していく。

(9) 研究授業計画

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	(1月)
低 教 科				山本	松井	松本		
中 教 科	高倉				白澤 廣田	岡田 城崎		
高 教 科		河内	畠林 南	中村		柚木	板井 山本千	